

[自主研究]

埼玉県における希少野生動植物の保全に関する基礎的調査研究

三輪誠 角田裕志 米倉哲志 王効拳 金澤光 嶋田知英

1 目的

埼玉県では、生物多様性保全の一環として、絶滅が危惧されている動植物についてレッドデータブックを作成し、それらの保護を推進している。中でも、特に重点的に保護する必要がある動植物は、「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」に基づいて、「県内希少野生動植物種」として指定されている。

現在、埼玉県レッドデータブック動物編には787種が、植物編には1031種がリストアップされ、そのうち、動物3種、植物19種が「県内希少野生動植物種」に指定されている。しかしながら、これらの種の県内における分布等に関する情報は、いくつかの媒体に散在しており、一元化されていない。

そこで、平成27年度は、「埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」に掲載されている希少野生植物種に関する県内での分布や生育状況等の基礎的情報を収集するとともに、これらの情報に基づいてデータベースを構築し、情報を一元化することを試みた。

2 方法

埼玉県レッドデータブック植物編は、平成10年3月に初版が、平成17年3月に改訂版が発行され、「埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」は再改訂版(平成24年3月発行)となる。植物編を再改訂するにあたり、平成20年から平成22までの3年間で、再改訂のための分布確認調査が実施された。なお、この調査では、植物種名、調査地、現地確認日、調査地の三次メッシュコード、標高、調査地帯区分、生育状況、証拠標本の有無、現存する集団数、全集団の群落総面積、全集団の総株数、以前と比較した増減、減少危機の主要因及びその他の所見が記録された。

本研究では、この調査により得られたデータを中心に情報を収集し、その植物種が属する科名や学名、実際に直面している埼玉県及び全国レベルでの絶滅危惧の程度がわかるように、データベースソフト「FileMaker Pro 14」(FileMaker社製)を用いて、データベースを構築した。

3 結果

「埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」には、1031種の希少野生植物種が掲載されているが、現在までに、そのうちの602種(全掲載種の58%に相当)についての分布確認情報等を収集し、データベースを構築した。これらの種を分類群別に見ると、維管束植物が574種、その他の分類群(蘚苔

類、藻類、地衣類及び菌類)が28種となり、収集した情報の多くが維管束植物に関するものであった。

図1に、本研究でデータベース化したレッドデータブック掲載種の確認地点数の割合を市町村別に示した。県内で掲載種が確認された約5900地点のうち、秩父市の確認地点数の割合が最も高く、次いで小鹿野町、飯能市、越生町、さいたま市の順で高かった。また、掲載種の確認地点数の割合が高い上位5市町で確認された掲載種の数は、秩父市が348種、小鹿野町が177種、飯能市が127種、越生町が100種、さいたま市が57種であった。これらの市町で確認された掲載種について、絶滅危惧の程度をカテゴリー別に見ると、秩父市では「絶滅危惧Ⅰ類」の割合が高く、小鹿野町、飯能市、越生町では「準絶滅危惧」の割合が高い傾向にあった(表1)。また、さいたま市では「絶滅危惧Ⅰ類」と「準絶滅危惧」の割合がほぼ同程度であった。なお、「絶滅危惧Ⅱ類」の割合は、いずれの市町でも大差なかった。

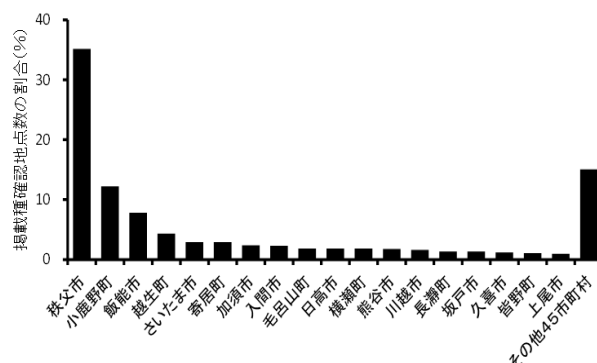


図1 レッドデータブック掲載種の市町村別確認地点数の割合

表1 秩父市、小鹿野町、飯能市、越生町及びさいたま市における絶滅危惧カテゴリー別の掲載種の割合

	絶滅	野生絶滅	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	情報不足
秩父市	0.0	0.3	40.8	28.7	29.6	0.6
小鹿野町	0.0	0.0	27.7	29.4	42.4	0.6
飯能市	0.0	0.0	24.4	23.6	50.4	1.6
越生町	0.0	0.0	26.0	24.0	50.0	0.0
さいたま市	0.0	0.0	33.3	28.1	35.1	3.5

(%)

4 今後の研究方向

埼玉県レッドデータブック植物編の掲載種に関する情報の収集を継続し、データベースの充実を図るとともに、県内で絶滅が危惧される希少野生植物種の生育について解析を進める。また、行政との情報の共有化を図る。